

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號九四三第・日九廿月一十輯編局報情

眞實週報

神州の正氣
 シイテに炸裂す
 あゝ陸軍特
 別攻撃隊
 皇國
 斷じて揺がず

愛媛の民衆に盛衰富士と雷を轟く
 富嶽飛行隊員 撮影 寺野朝雄隊員



石丸を期に陸軍特別攻撃隊

十一月十三日の大本營發表は、我が特別攻撃隊萬葉飛行隊の第一陣が十二日朝、比島レーイア湾内の敵艦艇を攻撃し、必死必殺の奮闘を以て、敵艦二隻、敵機二隻を撃沈した。壯烈なる戦果を中外に明らかにし、續いて翌十四日の大本營發表は、萬葉飛行隊の第一陣が十三日の夕刻、ルソン島東方海面に敵機動部隊を捕獲し、同じく奮闘を以て敵艦二隻を同時に撃沈するの偉勳を擧げたことを報じた。

まさに海軍の神風特別攻撃隊の出陣あり。

今また武々林の如き静けさで待機してゐた隊員の特別攻撃隊、萬葉、富嶽兩飛行隊の出陣の報に接して、銃後一億の感動、感涙は言語に絶するものがあつた。その感動、あの感動こそは、恐らく如何なる文筆者といへども、これを文字に表現しつくせぬほど大きく且つ深いものであつたらう。

と同時にまた、陸海の若輩が渾然一體となり、必死必中、必死必殺の特別攻撃隊として決然と出陣した事實を聞いて、比島方面における陸海空の激戦が皇國の興衰を決すべき重大決戦であることを今更の如く感ぜし、身の

引張り血の逆流するを覺えたものもあつたと思ふ。

特別攻撃隊の出陣がなほゆまにたくも銃後國民の心底を揺さぶり、その阿鼻を掻きむしつたのであらうか。

それは彼等の出陣に「生還」がなく、彼等の攻撃が即ち死を意味するからである。

人間としての一切の名利を捨て、人間としての一切の情みを克滅し、死を超え生を越えて彼等若き輩が、ひたぶるに求めんとするものは何か。

彼等は名をこそ惜しめ、その名をすら顧



田中吉一

生田豊

佐々木

〇 贈詞について

出陣を前にして各々作戦を練る萬葉飛行隊長西島少佐(右から)豊田少尉(二人おいて来野少尉)

みず萬葉の櫻花の如く敢然と放つてゆく若輩が、一途に求めんとするものは何か。

それは「日本の勝利」である。

存亡の岐路に立つ皇國を、富嶽の泰きにおかんがための勝利である。その勝利の礎石となるために、彼等は従軍として「體當り」し、決然として「必死必殺」の強襲を行つてゐるのである。

二

神風特別攻撃隊 將兵全々燃然

一身燃然大任重 不怖死徒不求死

これは比島方面陸軍航空部隊指揮官荒木中將が、萬葉飛行隊の出陣に當つてその壯意を説いた時である。「死を怖れず、しかも徒らに死を求めず」の一句こそ、我が特別攻撃隊員の心境であらう。また菅原陸軍航空總監は「萬一出陣しても、敵を發見できなかつたり、或ひは發見しても體當りするに不適當な運物であつた場合には、深く其地に歸つて來い。斷じて死に念きをしてはならぬ」と訓した。

からした親善連の月頃の訓育は、既に死を決心してゐる若輩達の心を一層清浄なものに高め、同時に心の修飾を興へもし、敵軍一隊

〇 出陣を前にして各々作戦を練る萬葉飛行隊長西島少佐(右から)久保軍曹、田中軍曹、生田軍曹、佐々木本佐長)



の突撃をして快心のものならしめてゐるのである。

それゆゑに萬葉、富嶽、八嶽等の陸軍特別攻撃隊の隊員達の出陣には、一歩の興奮も一片の精進もない、まことに淡々たるものであつた。しかも一たび戦場上空に發射するや、彼等の職業的任務を仰びて行を共にした新司偵察や、近接戦闘機の搭乗者の目撃証によれば、一機また一機と雲間から敵艦船がけて真一文字に、爆撃機としては到底成へられないやうな急降下を続け、機身一如、身弾一體の體當りを敢行した。その開戦爆發の神妙しい姿には、思はず熱涙の滾るを禁ずることができなかつたといふ。

三

想ふに萬葉隊といひ、富嶽隊といひ、特別攻撃隊全員を貫く體當り精神は、全陸軍の將兵を貫く精神である。

ヒアク島沖で敵艦艇と衝突し、全機體當りを以て突撃した高田戦闘機隊、或ひはカ1・ニコベル諸島沖で東機英空母に體當りして一機に撃沈した阿部信弘中尉、北九州侵入のB2に體當りした野澤軍曹、印度洋上の我が無敵艦を撃つた敵艦艇に體當りして危

命を救つた石川清雄中尉、更にはガラルカナル島の犬野挺進隊をはじめ、サイパン、アモラン、大宮、ペリリニ、モロガイ等々の島嶼戦にかられる内海新迫み挺進隊……これら陸に空に海に敢行されてゐる體當りは、いづれも皇軍獨特の精神力を以て、物量の甚大に酔ひしれる敵を撃倒し去らんとする陸軍魂の強靱にほかならない。

レイテ島の戦いよく聞く、皇國は今やまさに興隆の岐路に立つ。祖國の危機を突破せんと思ふ熱血大と燃ゆる陸軍特別攻撃隊は、奮然とした。萬葉、富嶽、八嶽……と後から後から陸海空に赴かんとする昭和の楠公の雄々しい姿！

われこそは必死必殺を期する全軍の先鋒たれんと拚りて幾百千の楠公！

あ、われもまたこの特攻精神を體して銃後の使命を完遂し、この決戦を闘ひとらう。

岩本高次郎中尉

大君の勅かしく今日よりは

大陣とかかりて吾は征くなり

武夫はちるもめでたき櫻花

花をも春をも人を知るらむ

大本營陸軍報道部

二の犠牲=禍の二



本月一日から三日が本土上空に侵入し、また降参の目的は、その足取りからみて、悉くはわが重要地区を陥らす傾斜している。帝都を中心として、わが本土が敵の機雷圏内に入つた以上、敵の本格的な降参の時期が目前に迫つてゐることはいふまでもない。

もちろん敵の本格的降参がどの程度のものであるかは推定できないが、敵機の降参によつて國內にある程度の降参を早することは當然懸望されることである。敵の非人道的な攻めもまたこれにある。

去る十月七日、敵の機雷降参による神奈川攻撃のときは、敵は神奈川市無差別爆撃機により焼夷、焼夷弾の雨を降らせ、狂火に逃げ上る市民には航空から機雷射撃を加へ、遂に無差別爆撃を繰り返して、市内の市民二百名を殺傷した。敵空軍下の或る新聞は、或ははこの意とも思はれぬ海軍の和を現出したと懸念される。

都市の無差別爆撃の被害についてわれわれはたび／＼聞かされてゐるところであり、敵の無差別爆撃についても知り過ぎてゐる。だがこの際、敵の空軍の責をどうも身近かに感得する必要はないか。敵が爆撃しようとするのは、われ／＼の家屋であり、財産であり、生命である。

敵はわれ／＼國民を目標としてゐる。われわれは断乎これと闘はねばならぬ。しかも、たとへば家と失ひ、財産を失ひ、或は生命を失ふとも、最後まで神州維持の勇気と、戦争到底の戦意を失はぬ限り、勝利の兆きはわれに歸することを深く心に期す。かく考へると、敵空軍の失脚に立つわれわれ國民の心算へと準備は十分だろうか。開引と疎開、待避所の増設、老幼婦女子の疎開など、われ／＼に負はされてゐる問題は、まだ多く多い。

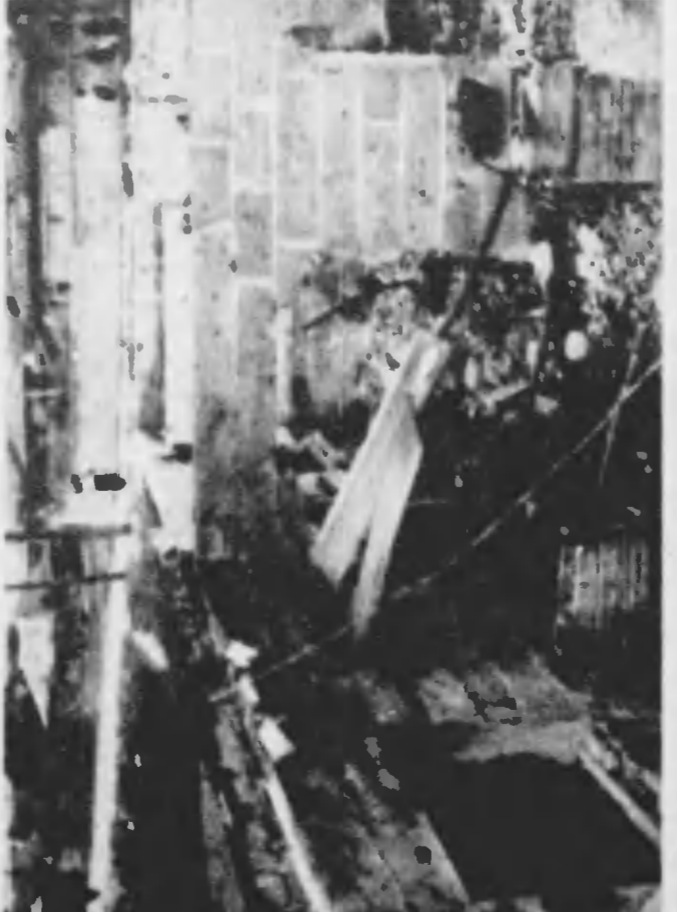
本土がこれに、敵が無差別爆撃機で行つた降参をまさ／＼示す攻撃を懸念した所以は、これによつて國民が敵空軍の責をどうも感得し、敵機にこれらの罪を問はせ、無差別爆撃に厲責を問はせんとすることである。

この場が立つても、われわれは断乎これと闘はねばならぬ。しかも、たとへば家と失ひ、財産を失ひ、或は生命を失ふとも、最後まで神州維持の勇気と、戦争到底の戦意を失はぬ限り、勝利の兆きはわれに歸することを深く心に期す。

一情笑の襲空覇那



敵の無差別爆撃の五層がこれだ。だが、地方の敵はけしこんでも、地方の敵は何ともない。爆撃も無差別爆撃もせず、一問も早く完全の備へを出せよ。



爆撃を避けた地帯にとりまわつて居る市民は、この空襲の被害を懸念するものだ。



爆撃を避けた地帯にとりまわつて居る市民は、この空襲の被害を懸念するものだ。



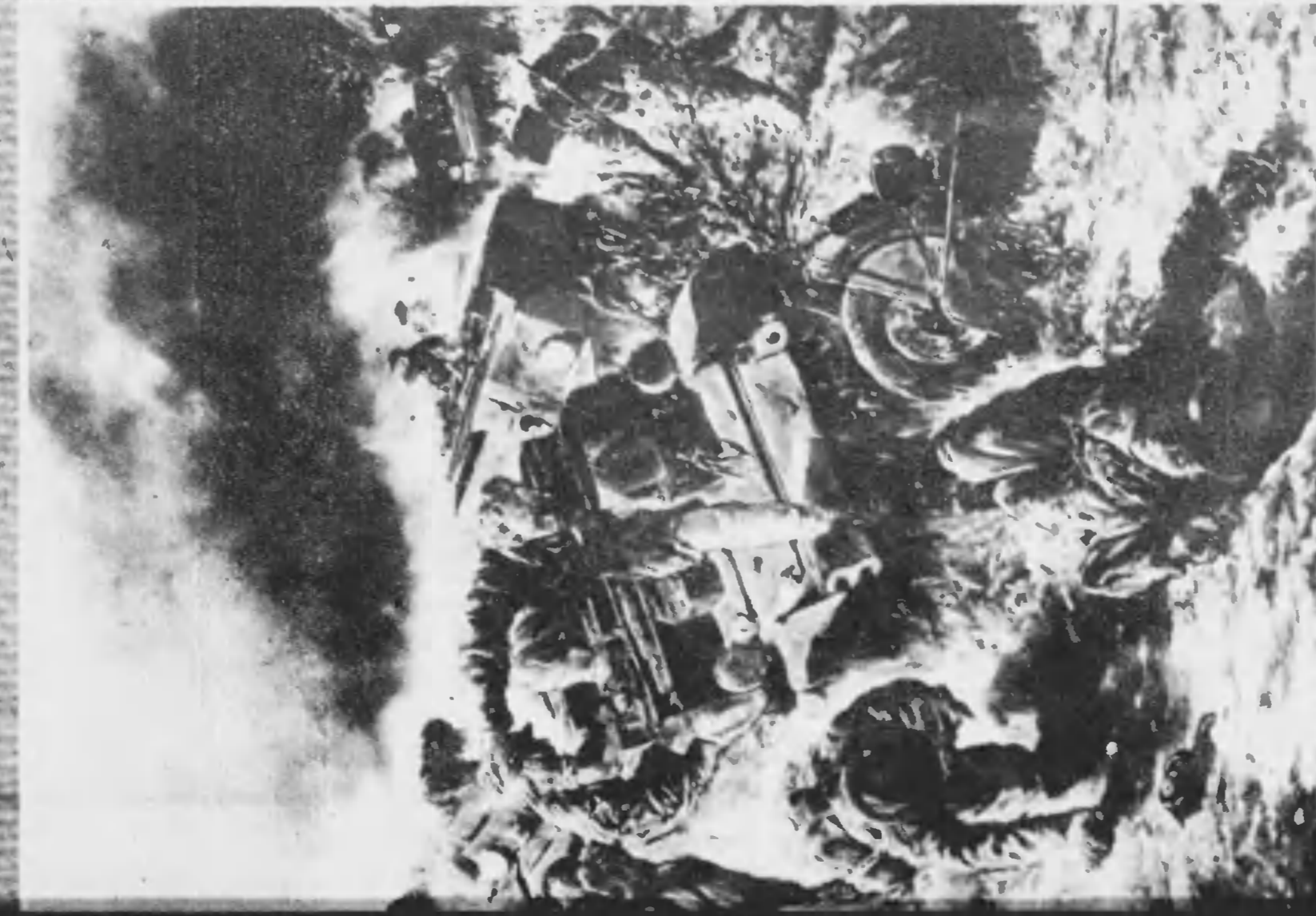
大

結實勇兵

《激戦の陣中風景》 藤澤洋平大尉

集印木堂

子父本繪



激戦の陣中 藤澤洋平大尉



月桂林秋

突入激戦

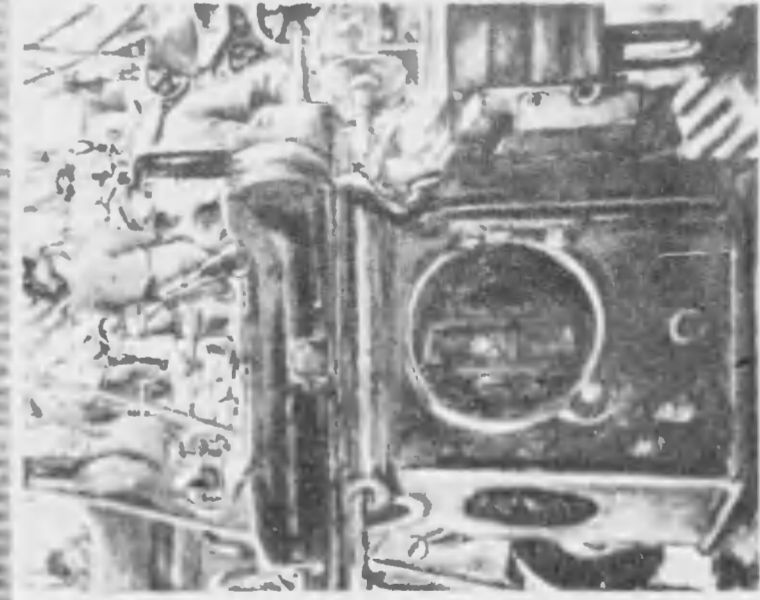


激戦野戦

陣中風景



野空激



子夜川激

壕工の下激決



壕工激々多

今人く懐に所陣中



延為川中

激戦内攻

省文部特別戦時美術展覧會

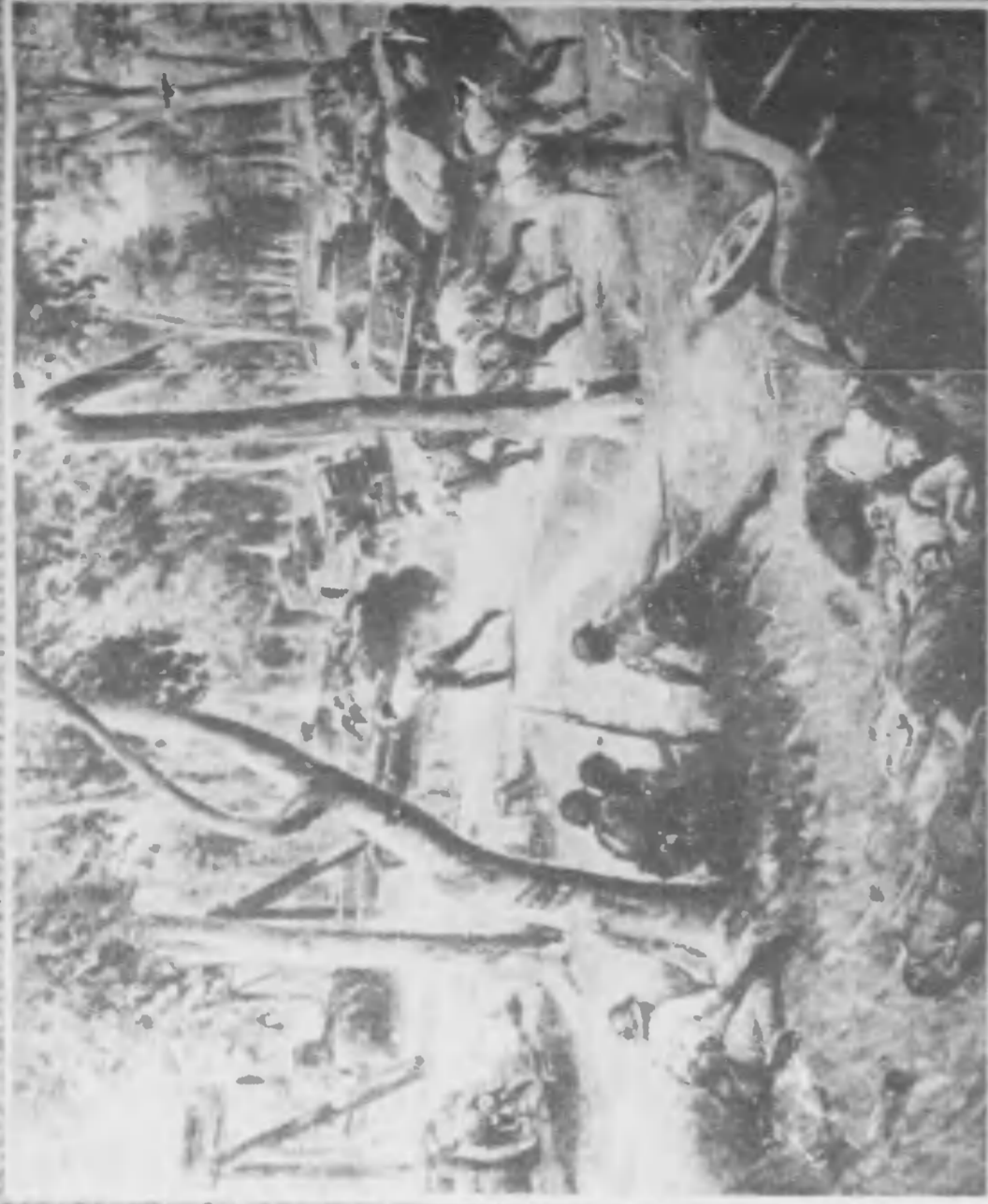
期會 自 日 五十二月一十 日 五十二月二十

文部省戦時特別美術展覧會は、十一月二十五日文部省主催美術展覧會として初めての戦時特別美術展覧會として、東京皇土野公園内の東京美術會館で盛大に開演された。各展覧會が何れもこの戦時を放棄してゐる所、獨りわが國が美術の繁栄を待つてゐる此展覧會が行はれる所以は、可成り戦時下に拘らず美術の維持を是れが國民士氣の増進に資するとするものであるが、決戦下の情となるわが國力を中外に示すもの以外ならぬ。各地同様に、陸海軍當局から特別出品が特別出品されて、展覧會期は十二月十五日までである。





三木 隆 陣中 (軍勢退却中) 旗を掲げる兵士



陣中 (軍勢退却中) 陣中 (軍勢退却中)



陣中 (軍勢退却中) 陣中 (軍勢退却中)



陣中 (軍勢退却中)



信原 陣中 (軍勢退却中) 陣中 (軍勢退却中)



陣中 (軍勢退却中) 陣中 (軍勢退却中)



陣中 (軍勢退却中)

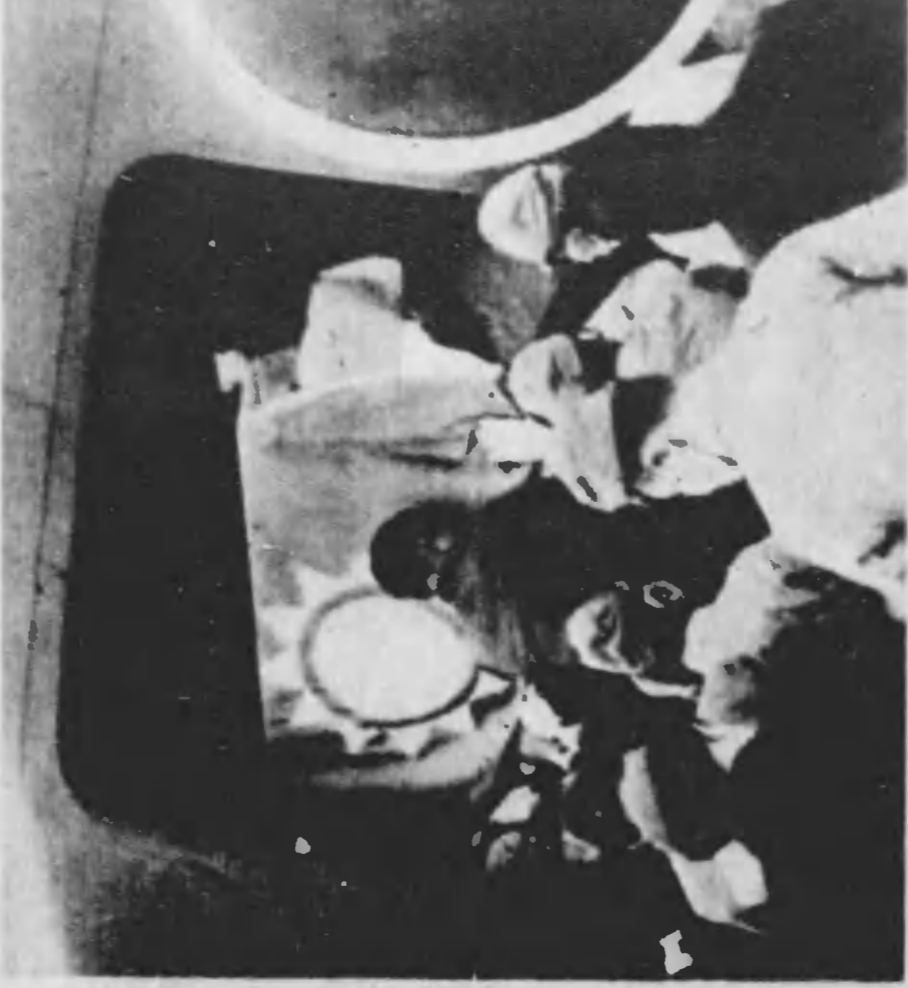


陣中 (軍勢退却中)



汪精衛 閣下 閣下 閣下
 明治十七年阿蘇省
 高田に生まる。名は英
 敏、精衛と號す。十
 七歳にして其の名字
 を改められ、廣東省
 政府より留學を命ぜ
 らられ、わが法政大學
 に入学。當時日本に
 亡命中の中國革命の
 父孫文の知識を得、
 爾來其の奮闘を受け
 つゝ、爾來中國建設
 の革命運動に投身。
 孫文氏政府時代は行
 政院副院長兼外交總
 長として、絶えず日本
 帝國に協力した。
 昭和十一年廣州の亂
 を受け、重慶を以
 て、下野外遊。同十
 二年、支那革命運動
 を、再び中央政治
 會議主席として、日
 華合作の企画を實現
 せしが、遂に容
 れられ、十三年十
 二月重慶を脱出、和
 平協定を聲明し、
 國民政府主席兼
 行政院院長として日
 華協定、大東亞建設
 に参加した。昭和十
 九年三月、阿蘇省の
 ため、再び、名古屋
 大法院で開庭中のと
 ころ、病勢にむかひ
 悪化し、遂に十一
 月十日逝去る。

汪主席生前の功績を讃せられ、其をより顕彰する大徳堂花車葬儀の
 例儀式。中央より右に列する重慶外務局長大東亞。最右に列する汪主席代
 理兼中華民國大使。左端は待立する小澤重樹(十一年九月九日、名古屋
 大徳堂葬儀にて)



恐ひ出の日本を脱れ、祖國への悲しい別離。
 十一月十二日午九時、汪主席の遺體は、愛
 用機「海軍艦」の中艀から焼められた

汪主席を悼む心

十一月十六日、東京都立
 聖土寺における汪主席の
 追悼會

昭和十九年(民國三十三年)十一月
 十日午後四時二十分、新中國の大なる
 愛國者であり、日本のよき協力者で
 あつた汪主席は、名古屋大本館
 の一室で、その病室に寝込んで六十二年
 の生涯を閉じた。病に倒れながらも、病
 室に閉じこめられても、病室を離れ、
 死したものは中國民族に對する深い
 愛情と、日支の提携による中國の復興

及び大東亞の建設であつた。生涯を新
 中國の革命に捧げた汪主席は、その幾
 年において中國の復興のために身を
 抛つて奮ひ、惜しくも中途にして病魔
 のためにたゞれたのである。
 しかし、たとへば汪主席の業績は、
 ともその業績は測り、なほ幾多の後
 進者の胸に響きとして残り、全國民
 衆の烈々たる決意の標に、興く大東亞

建設の理想を實現せしめんとはあがめ
 であらう。
 帝國政府も汪主席の逝去と同時に、
 中外に聲明を登し、その不滅の功績を
 讃へ、衷心より哀悼の意を表すると共に、
 對華方針の不動と結盟の強化を宣
 言し、いよく相携へて大東亞戦争を
 完成し、共同の理想達成に邁進すべ
 きを強調した。



松根油の増産

戦争にはあらゆる物資が必要とされますが、中でも油は最も重要なものの一つです。いくら飛行機をつくっても油がなくては飛べませんし、工廠の機械も油がなくては動きません。陸軍も空軍も油がなくては動かない。日本でも四角ダイアでも、全力をあげて増産に努めると共に、できるだけこれを節約し、また材料増産技術を開けて、代用油の製造に大奮です。ここに先話しようとする「松根油」もその一つであります。「松根油」は簡単にいふと、松の根からとれる松油とガソリンのやうな油で、ほとんど戦前まではこの大増産をはかることになりました。

松根油の製造

- ▲松の切株を細り出して、これを二寸、長さ一尺位の大きさに小割りにし
- ▲製油機の釜の中に入れ
- ▲最初百八十度位の温度で長時間蒸らし
- ▲蒸気は空気を加えて、側面を加熱し、釜内を攪拌し、不揮発性物質を分離させ、油と水とを分離する力です
- ▲次に二百八十度位の温度が上つたとき、加

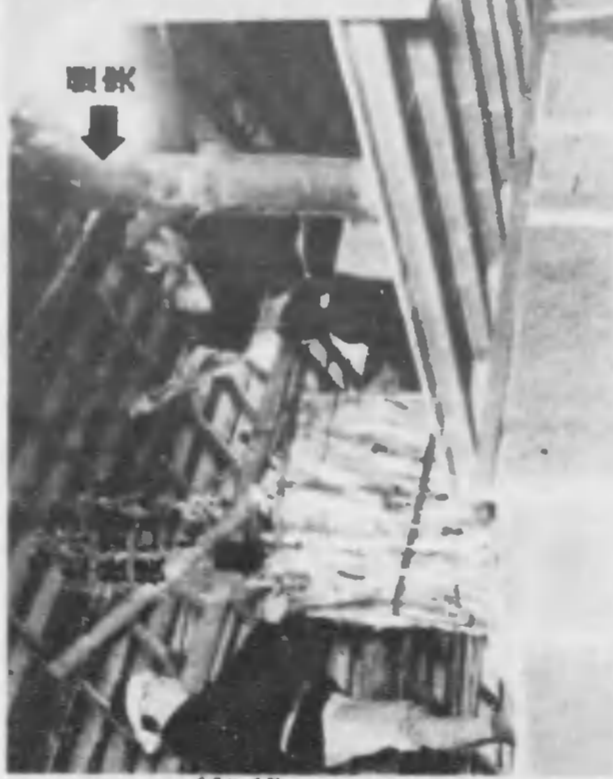
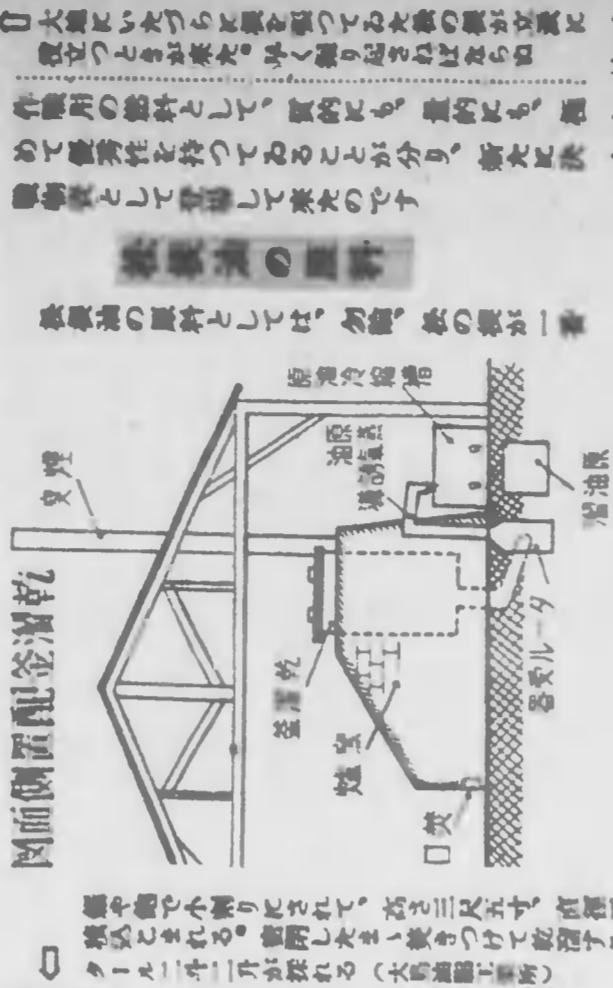
熱を加え

- ▲蒸りと三百乃至三百五十度位にまで強く加熱して蒸発すると
- ▲いはゆる松ヤニ（樹脂分）が出て来ます。これが松根油のもとです
- ▲蒸発すると――
- ①最初には水分の多い水蒸気が出て
- ②次に揮発性の樹脂油（松根油、別名テレピン原油）が多く出るやうになり
- ③最後に蒸気の結晶がある松根タール（別名山タール）が出て来ます

このタールの大部分は釜中でタール油の方へ流れてゆき、松根原油と水蒸気は、しばらくすると二層に分れて、軽い松根原油が上の方に溜ります。この松根原油と松根タールを一括して松根油といふのです

松根油の用途

今まで松根油は兵器の被覆油や、燃料油や、軍用品製造の原料として、また戦闘機などの燃料として使用されてきたに過ぎなかつたのですが、最近その用途は一變して、航空機などの

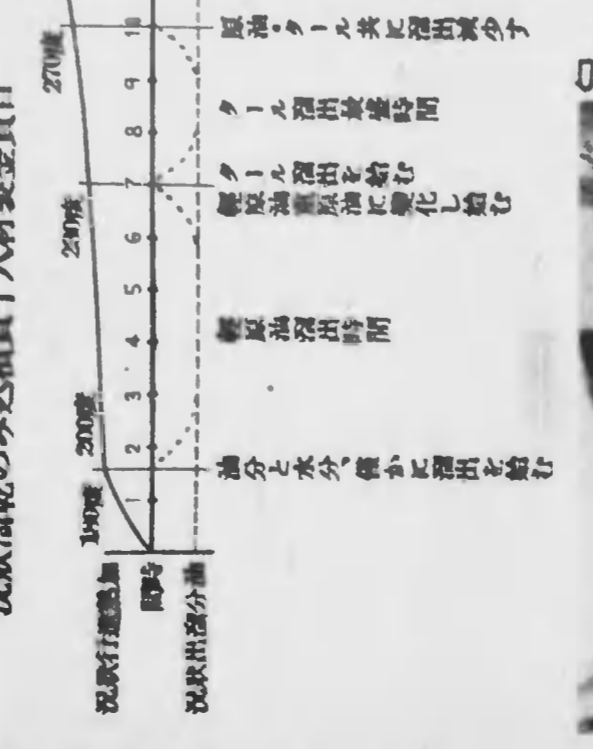
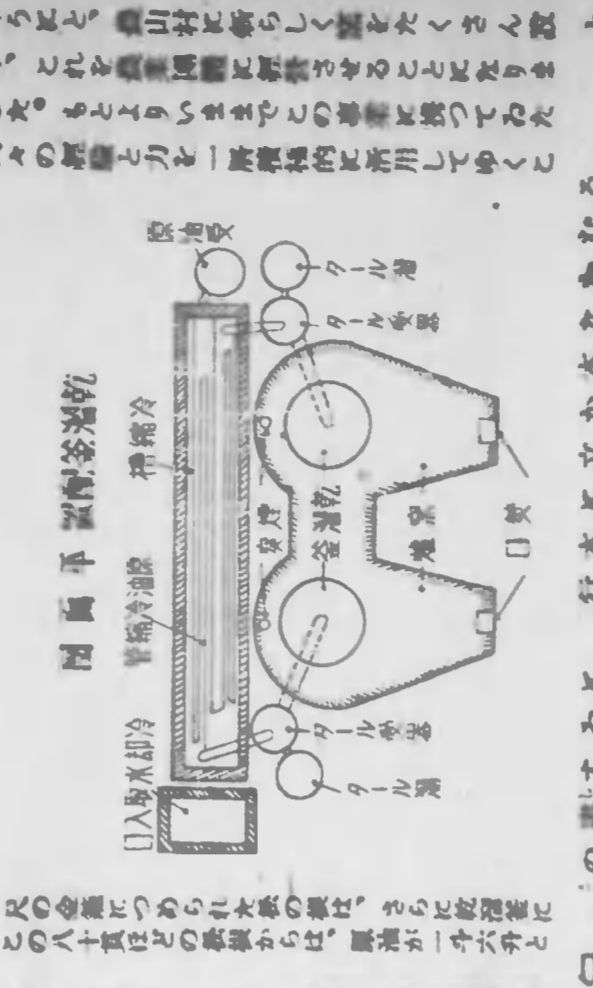


よいのですが、松ヤニからもとれますので、今度の増産に當つては、これらも加へることにいたしました

松の根は伐採してから七、八年以上を経過したものが一番よく、油のとれる率も多くて、普通百貫から、三、四斗位は得られますが、新しい根でも、平均二斗五升位はとれます。ですから今は古い新しいを問はず、細り出せるものはすべて機械的に細り出して、少しでも多く、松根油をつくらねばなりません

生産の合理化

松根油の製造は従来、一部の企業者によつて行われてきたのですが、今度のやうに、一時に今までの十数倍といふやうな大増産を行ふためには、合理的、能率的な方法をとりねばならないので、要を細り出したその場で油に送れる



と申すまでもありません

松根油の製造は、松根油の先決条件たる原料の確保について、松の根（樹根の根を含む）の大増産を行ふことになり、十一月一日から五箇月間松根油の増産期間として、徹底的な採掘を官達することになりました。これこそ本當の根こそぎ動員です。松山村の方々はどうか一休でも多く松の根を細り出して國のお役に立てて下さい。都府の人々もなるべく勤勞奉仕に出かけて廻つて下さい。特に青森地方では、本格的な採掘期に入る前に、相當な量の採掘を行つておく必要があります

今まで松が生産の第一線に躍出した後、山形にそのまゝ移植されて、同様の採掘を始めて松の根も、いよいよ躍出の時が来たのです。松の根の所有者は、今こそ進んで松根油の増産に努めようではありませんか

松根油の増産に努めようではありませんか



松根油の製造は従来、一部の企業者によつて行われてきたのですが、今度のやうに、一時に今までの十数倍といふやうな大増産を行ふためには、合理的、能率的な方法をとりねばならないので、要を細り出したその場で油に送れる

光の干渉

光が反射してゐる鏡で、油の浮いてゐる海面が鏡の色相をしてゐますが、なぜせうか。光は一種の波で、いつも振動してゐます。つまり波形が平らな、第一調子のやうになり、波が高低ほど光が強弱感じられます。いまイとロとの二つの光が同時に来ると、第一調子のやうに、二つの波が上下に對照した位置にあると、二つの波が互に打ち消し合つて、平たい光になります。二つの波が同じ側にあると、第一調子のやうに互に助け合つて、平たい強い光になります

太陽の光を分光鏡で分けると、美しい七色に分れますが、これは太陽の光が多くの色の光線を含んでゐるためで、からいふやうにいくつもの色に見えるのは、光の波長がちがふからです。そこで私たちに見える波長はどの位かといふと、一ミリの一万分の四から八位までで、やむを得ないものですが、この一万分の四ミリの波長の光線は美しい紫で、一万分の八ミリは赤として感じられます

さて、海面のごく薄い油の層に光が当たると、第二調子のやうに光は、油の表面から反射する光と、油の層を透つて海面から反射する光とに分れて互に干渉し合ひますが、油の層を透つて海面で反射する光は、油の層を往復するだけ遅延をします。ところで、この遅延が光の波長の半分になるときは、さきに説明したやうに反対側になるので、互に打ち消し合つて暗くみえます。またこの遅延がちょうど一波長のときは、第一調子のやうに二つの光が同じ側になるので互に助け合つて明るくみえます。実際には油の層の厚さはきまつてゐませんが、ところによつてもちがひますし、また太陽にはさまざまの波長（色）の光があるので、あのやうな色の調子になつて見えるのです。もし太陽の光の代りにナトリウム光線のやうな単色の光を照射すると、単に明暗の縞だけになつて見えます

この光の干渉現象を利用して、物の表面の凹凸や、肉眼ではみえないほどの僅かな距離の測りなどを測ります。これらは幾万分の一ミリといふやうな高い精度まで測ることができるので、工作品の検査に役立ちます。そのほか、鋼山でガスがあるかないかを見分ける検査などに、各方面に適用されてゐます

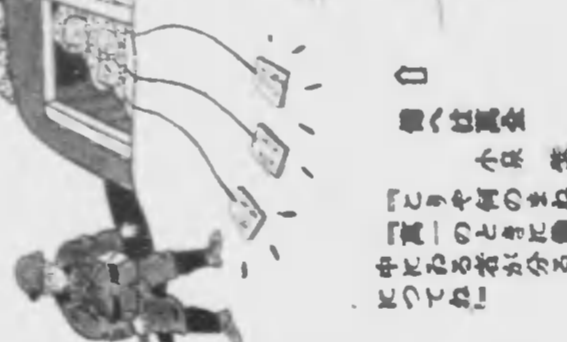
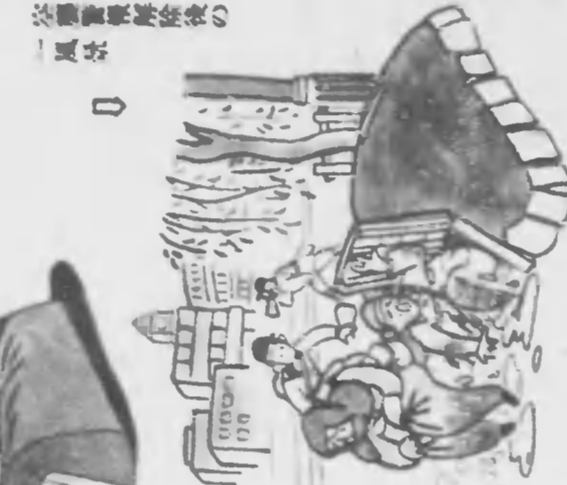


天快先生

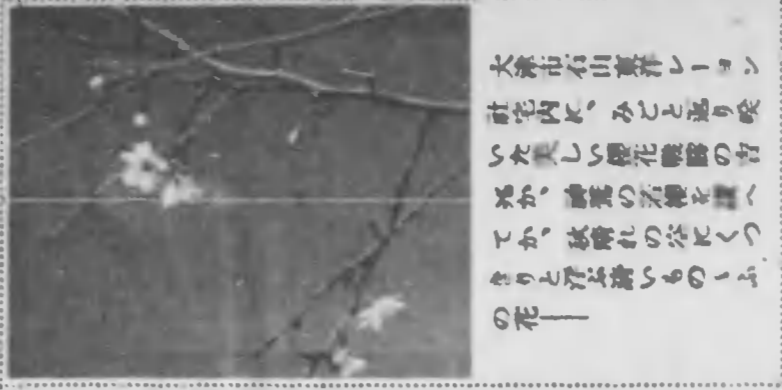
天快先生は、白い息を吐いた。二三日前から
顔が時りほじめ、朝はなかくに寒い
「困ったことが流行りだしたもんだ」
天快先生は、白い息と一緒につぶやいた
「言葉といふものは、もつと尊重せんといかん」
天快先生は、裏木戸を開けて、空地に出た。空地に
は、隣組の若い連中が七、八人朝の體操をこなしてし
ばしの體操中だ。天快先生の耳に届いたのは、この
の雑談なのだ。リウウケンヒョウ、そんなものでは
ない。この頃、町に流行してゐる遊戯、即ちさかさ
ま番なのだ。酒をケースと連にして留且つ妙にひア
ばつて唱へ、ビールをルビーといふ如き言葉だ。に
くい奴といふのを、くにい奴だね。一寸聞いたんじ
や何のことだかさっぱりわからない
「そりや、かいアだな」
と言へば、それは高いといふことになるといふん
だから、老若天快先生でなくても、呆れかへらざる
を得ない。いやな流行だ

「みなさん、お早う」
天快先生は聲をかけた
「おいだアむいさになつたやね、先生」
「大分寒いと言つてるのだとはさつたが、天快先
生はすましたもので、てんでとりあはない。そのう
ち着い連中の一人がポケットから赤いタグモノを一
つ出した
「ぼよ、あつらしいものを持つてるね」
と天快先生
「どうです、このごりんは」
とその男が言つたと同時に、天快先生は、たもと
り一錢玉を出して
「五厘とは安い。ゆづアて買はら、釣はいらん」
と、さアさとリウウケンヒョウを受け、あつげにとられて
みる相手に一錢玉を渡して
「こみやのぼくせい、せむたのりもに、びそゆるら
いかは、れわらがごぼろ、知つてるかね、都の西
北早稲田の森にだ、昔もこんなつまらん流行があつ
たのさ。よしたまへよ。言葉は大事にしたまへ。五
厘とは安い、五厘とはありがたい」
と、さアさと木戸を押してわが深く入つてしまつた

弾指手



「何とが直らんかねえ」
「さあ、ねえ」
「……(彼は家裏に)」
「本調とか所段」
「の物とか便所とか門燈とか
さういつた場所の電球は、
口の開けたのたぬに、
が加はつて自然にゆるんで
きます。それで時としてス
イッチを入れてもつかぬこ
とがありますから、一應ひ
ねつてみる必要がありま
す。わかつてみれば何でも
ないことですが、ラジオの
風管なども同じ理由で、
ゆるんで聞えなくなること
もありますから、よく注意
して下さい」



「この非常は今年最後の非常です。一年間の非常を
深く反省し、さらに一層の朝暮公にはげませう」

でも叩かれても必死の反抗を続け、決死に大く決戦の陣中で
今こそ一掃の情激を必勝増進の一掃に打ち込み、飛行機をはじめ、
あらゆる兵器をどしどしと第一線に送りませう
神風特別攻撃隊を始め、幾多の犠牲者を出した戦果を戦に生か
すのは今です。「飛行機を攻撃」と叫びつゝ、連隊の人柱となれば、勇
士の表現に値するは今です
一、一掃の情激を必勝増進に
必死必中の犠牲に厭へて、精進のため大急ぎに兵器を作りませう。
今日の決戦に間に合せるため、軍需品の生産や輸送に當る人々は
犠牲者精神でこの戦末も最後まで頑張りぬませう
二、一掃の情激を必勝増進に
食糧の確保は勝つたわねに見ても必要です。農山漁村では
一掃食糧増産の決意を固め、特に農村では春の手入れと増産の増
産に全力を注ぎませう
三、一掃の情激を必勝増進に
戦は空襲によって後方の混乱を招いてゐます。防空の備へをいよ
いよ整頓し固め、訓練も形式に流れず真剣訓練の心掛けで肉心の
ゆくまで行ひませう
四、一掃の情激を必勝増進に
一掃戦友愛で結び合ひ道義心を高め、戦友互生を生かして物の消
費をきりつめ、また日常生活を通じて強健な身体に鍛へあげ、決
戦生活を正しく闘つる生活にしませう
五、一掃の情激を必勝増進に
決戦貯蓄は四百十億圓に追加されました。一掃貯蓄にげんみ、間
に合せを助成し、年末の臨時収入は貯蓄により向け、現金は出來
るだけ手持ちせぬやうにしませう
この非常は今年最後の非常です。一年間の非常を
深く反省し、さらに一層の朝暮公にはげませう